
神さまの援助

スタジオ・クリエイティブ ドック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神さまの援助

【Nコード】

N7387J

【作者名】

スタジオ・クリエイティブ ドック

【あらすじ】

人類に未曾有の災害が襲いかかる。人々は必死の思いで復興を目指す……。指すが……。

その惑星は長い歳月の末、生物は順調に進化し、支配種となった人類は繁栄と栄華をきわめていた。

しかし良い事はいつまでも続かないのが、世の常である。

原因不明の地殻変動が人類をおそう。キツリツしたビルは次々と倒れ、きらびやかなネオンが人々を楽しませることはなくなった。

度重なる火山活動のため、大量に吹き出した溶岩は大地を焼きはらい、人々が精魂込めて作り上げてきた文明を跡形もなく消し去っていく。

恐ろしい規模の津波が頻発し、多数の市民が犠牲になった。そればかりではない。海洋環境の激変により漁獲量は極端に減り、地殻変動によって壊滅的な打撃を受けた農作物の収穫量とも相まって、未曾有の食糧危機がおとずれた。

「こんなことで我々は滅びはしないぞ」

絶望的な空気の流れる中、優れた指導者が現れ、また人々も頑張った。

みなな懸命な努力の末に、惑星の復興は順調に進んでいく。数年後には、災害以前の状態とまではいかないが、多くの人々が明日への希望を抱く事のできる生活を取り戻していた。

そんな人類に再び驚異が迫る。

天文学者のグループにより、彗星が惑星の至近距離を通過するといふ知らせがもたらされたのだ。

彼らは、彗星の飛来が惑星に多大な被害を及ぼすであろうと警告し、人々は災難を免れるため、地下シェルターへ避難せざるを得ない状況となる。

彗星通過の影響は激烈を極めた。復興途上にあつた都市はことごとく壊滅し、回復の兆しを見せていた農作物も大きな打撃を受ける。

彗星が去り、人々が地上に戻ったとき目にしたものは、前の災害でもたらされた惨状より更に絶望的な状況であつた。

しかし彗星は人類に一つの希望を残していく。

彗星から放出された特殊な粒子が、惑星に存在する幾つかの物質にある変化をもたらしたのだつた。

その物質から精製された金属は、従来のものより加工がしやすく、最終的な処理をすれば強度が二倍になるという素晴らしいものであつた。

「神は我らを見放してはいないぞ！ また、みなで頑張ろうではないか」

指導者のかけ声のもと、人々は新たな技術を武器に再度復興への道筋をたどつた。

新金属の恩恵もあり、もはや再生不可能と思われた惑星も、徐々に

ではあるが希望のもてる状態へと変わっていく。

しかし、しかしである。またしても人類は大きな痛手を負うこととなった。

最初の災害以前、地下に封印されていた大量破壊兵器の多くが、度重なる大変動の影響で突如暴発したのだ。

三度、地上は焦土と化す。

人々は真に絶望し、かつて栄華を極めた人類も滅亡の危機に瀕していた。

「神よ、あなたは私たちにどうせよというのだ。これは私たちが犯した何らかの罪の代償なのか。こたえてくれ、神よ」

多くの人々が天を仰いで叫ぶ。

その時である。

厚い雲に覆われていた天空より、一筋の光が差し込んだ。

『民よ、わたしを呼んだか』

空全体に響きわたる荘厳な声が、世界中に降り注ぐ。

平和な時であればワイドショー総出の事態であるが、事ここに至っては全人類最後の希望といって良い状況であった。

「神さま、私たちに何故このような試練を与えるのですか。私たち

をどうして救っては下さらないのしょうか」

人々は、恨みと戸惑いと希望を抱きながら神に尋ねた。

『そなたたちが大きな苦しみに遭遇していることは知っていたが、その度に自らの力で乗り越えて来たではないか』

「いえ、もう限界です。私たちは相次ぐ災難に疲れ果てました。こうなっては、あなた様におすがりする他はありません」

『なに、わたしの助けが必要なのか。それならば早くそう申せばよいのに。わかった、そなた達の願いを聞き届けよう、慈悲であるが…』

「ああ、有り難い。お慈悲を、ぜひお慈悲を下さいますようお願い申しあげます。今あなた様に見捨てられては、人類は滅亡してしまいます。復興がなったあかつきには、前にも増してあなた様を信仰いたします。どうか我々をお救い下さい」

空が一瞬まばゆい閃光を放つ。神が人々の願いを聞き入れたかのよう

以後の復興作業は、嘘のように順調だった。大量破壊兵器のもたらした毒素は一瞬の内にかき消え、重く垂れ込めていた灰色の雲も、数日後にはすべて消失したことが確認される。

その後、人類を苦しめるような災害は一切おこらず、みな希望をもつて復興作業に当たれることを喜んだ。

十数年後、彗星がもたらした新金属の効果もあり、人々は最初の災害以前の生活を取り戻しつつあった。

しかし、そのころから奇妙な事件が起こりはじめる。

収穫したばかりの作物が、一夜のうちに消滅したり、掘り出したばかりの鉱石が、誰も気づかぬ間に持ち去られてしまうのだ。

最初の内は、復興がなされ再び貧富の差がつき始めたので、盗みをはたらく不心得ものが増え始めたのであろう、と大きな問題にはならなかった。

しかし同じような事件があらゆるところで起き、全く解決できない状況が続くと、そうも言っていられなくなる。

それに加え、盗まれた品は一瞬の内に掻き消えてしまったという複数の目撃証言が相次ぎ、人々を不安にした。

「……もしかしたら」

仕事から帰途につくある男の脳裏に、一つの仮説が浮かんだ。

「あの時、神さまは”慈悲であるが…”と言った。でも、あれは”慈悲”ではなく”自費”だったのではないか」

しかし男はすぐに思い直す。

「いや、神さまが人々に費用を負担させるなどという事があるはずはない。バカなことを考えるのはよそう」

男は恥いり、家路を急ぐ。

だが男の思いをよそに、その後神の取り立ては容赦なく続いた。

（後書き）

スイマセン！ 魔がさしました。他の事で漢字変換している時に出ちゃったもので……。慈悲と自費を扱った書き込み自体は多数あるようなのですが、ついやってしまいました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7387j/>

神さまの援助

2010年10月14日13時46分発行